

4月の果実の見通し

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
イチゴ類	4,090	前年並み	4,691	956	98	855	0	0.0	栃木、福岡、佐賀、静岡産中心の入荷となる。3月に入って気温が高めの日が続いたことで九州産の出荷も回復し、入荷量は増え、3月中旬にかけて下げ基調となった。4月になれば4番果も出荷され、価格は一段と下げるが、売りやすい価格となって終盤まで荷動きは良いと予想される。
メロン類	788	105	960	884	92	736	0	0.0	熊本、茨城産が中心となる。3月下旬より熊本産春メロンの出回りが始まっているが、年明けからの低温で初期の部分は少なめ。中心品種の「アンデス」は4月に入れば徐々に増え下旬にかけてピークになる。4月上旬には茨城産の「オトメロン」、中旬には熊本産「クインシー」も出そろってくるが、かんきつ類が少ないこともあって販売スペースを埋める商材としても需要は高い。全国的にメロンの栽培面積は減少傾向が続いているが、前年よりは入荷量が多い。
すいか類	1,907	大玉:前年を上回る 小玉:前年を下回る	1,833	297	100	288	0	0.0	熊本、茨城が中心となる。熊本産大玉すいかは概ね生育順調で、中旬以降旬を追うごとに増えてくる。交配時の天候不良もあったが、徐々に玉肥大も進んでくると思われる。小玉傾向だった昨年よりは入荷労多いが、4月以降も気温高が見込まれることから引き合いは堅調。関東産の小玉スイカは出始めの数量は少なめだが、4月半ばから増えてくる。食味は良いが、前年と比較し数量増、単価安の見込み。